

## 議会に対して 望むこと

まず、議会からの情報発信、その努力と実践に対し感謝いたします。その中で合併という事態に浮かれ、小さな行政への徹底した合理化が忘れられた歩みに段々になっていることが残念でなりません。

本町では、今後5年間で11億円の交付税が減り、また人口は2010年の1万7500人から、2040年には1万500人へと7000人減ると予想されています。この難題に議会と行政が一体となって、いかに合理的にスリム化していくかが一番求められている課題であると考えます。形容詞の羅列ではなく、数字的目標

鹿島 繁雄  
(塩津)



をかけた真実を町民に訴え、改革してこそ町は生まれ変わります。

民間での合理化は必ずメスが入ります。生きるか、死ぬかの戦いです。自治体も競争時代に入り、JA鳥取西部がたどった合理化と同様の経過を歩むと想像します。

議員のみなさん、仏教の究極の目的である「忘己利他」の精神で、真の改革の実現を期待します。

## 町民は町政に 関心と参加を

高島 信平  
(御来屋南区)



「議会だよりだいせん」はデザイン・編集など素晴らしく一見して議会の様子がわかり、特に一般質問では議員とその提起される問題に緊張感が伺えます。議会だより28号・35号が全国町村議会広報コンクールで全国2位の栄誉を2回も受賞されたことは、議会はもとより町民にとってもうれしい誇りです。

35号では地域自主組織「ふれあいの郷かあら山」が紹介され、高麗地区の住民の団結力を強く感じました。名和地区でも庄内・御来屋に地域自主組織が発足し、今後、大山・名和・中山3地区それぞれ特色ある活動が期待

され、それを支えるのが住民参画です。

また、「議員と語る会」は町民が行政に対し要望を伝えるよい機会です。参加者にとっても好評です。しかし、特に若い人や女性の参加者を増やすことが必要と感じます。

今年は大山町合併10周年、「温故知新」<sup>おんこちしん</sup>さらなる発展は町民の力で議会を通じ、行政に反映させることが源泉と感ずるこの頃です。